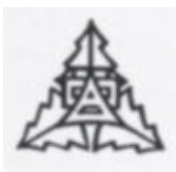


「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 3

令和4年5月31日発行 校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子

徳 心豊かで思いやりのある子

体 進んでやりぬくたくましい子

子どもたちの向上の姿に歓び合う

太田 等

転圧作業と安全点検（遊具以外）を終えた広いグラウンドで登校後や休み時間に子どもたちは太陽の光を全身に浴びて鬼ごっこなどをし、歓声をあげ、元気に遊んでいます。一方、来月予定の運動会は感染状況を鑑み、9月に延期することといたしました。

本日で5月が終了しますが、振り返ってみますと今月は本校においても学級閉鎖等により、オンライン授業の本格的な取り組みを開始することになりました。開始当初は、「黒板の字が見えない」「共有がスムーズにいかない」など困難が発生しましたが、職員の力を結集し、機器の操作を一つひとつ身につけ改善をしていきました。これらを通し「新たな発想は窮地によって生まれる」というイノベーションたるものを学びました。更にオンラインでは、昨年の研修での学びを生かした西春別スタンダード（西スタ）の効果も発揮しました。

先週は、目指す子ども像「自分の考えたことを分かりやすく表現できる子」に向けた授業研究が5・6年学級で行われました。チームスでタイムスケジュール等や学習の定着、言語力向上を図る西春別学びレポート（学レポ）の定型デザインの明示があるなど、持続可能な授業改善につながる有意義な研究の機会となりました。

その先週の指導案検討の際、国語科の大家である 大村 はま氏 の教育に携わる者として心したい言葉（下記参照）を全職員で学び合いました。

子どもというのは、一步でも前進したくてたまらないんです。そして、力をつけたくて、希望に燃えている、その塊が子どもなんです。勉強するその苦しみと喜びのただ中に生きているのが子どもたちなんです。研究している先生は、その子どもたちと同じ世界にいるのです。（中略）大事なことは、研究していて、勉強の苦しみと喜びとをひしひしと感じていること。そして、伸びたい希望が胸にあふれていることです。私は、これを教師の資格だと思うんです。

（大村はま「研究することは『先生』の資格」）

町内外において感染者数がこれまでになく増えている状況ですが、本校では、職員が互いに目的をもって高め合い、西スタによる子ども達の考えを表現する力の向上を目指すなど「コロナを正しく恐れること」を基本に添えて推進しています。

子ども達が一生懸命に書き上げた学レポを手にとると、子ども達の学びの様子や心の声がよく伝わってきます。

「つぎは、字をきれいに書きたいです。」「次は、根拠をしっかりと考えられるようになりたいです。」「今日の学習で勉強になったことは、学習用語をたくさん知ったことです。」

こうした子ども達の学びに向かう記述に、先生方の表情に笑みがこぼれます。その歓びは共感を広げ、新たな希望を生み出す原動力になります。「守破離」という言葉があるように、今は書き方の定型を身に付けている段階で、わずかの字数を書くにも時間がかかることがあります。しかし、これまでの経験から継続することにより、書くスピードも筆圧も驚く程、向上していきます。更にはこの定型を打破し、構成をアレンジするなど、自分の考えや何を学んだのかを他者に道筋を立てて自由に表現できる力がついていきます。

今後も「チーム」で子どもの学びの姿（事実）を共有し『勉強の時代から学びの時代』という発想を明確にもち、「考え、表現する力」を形成する学力保障に努めて参ります。